

【校長室便り】

No. 30

H30年10月29日（月）土佐町小中学校 谷内宣夫

今日は選書会が行われました。今週は読書週間です！

道徳の研修会で、講師の先生からこの本

のことを紹介され、早速読んでみました。

生徒の皆さんにも、保護者の皆さんにも

読んで欲しいと思いこの便りで紹介します。



感動 「強い子」というお話。

りーちゃんという女の子のお話

ある難病の女の子のお話

女の子は進行性の難病で入院。



大きな手術が必要で、失敗すれば命を落とすかも……。

体は鉄パイプみたいなもので包まれ、

頭は鉄の輪で止められて、とてもつらそうなのに、

女の子は笑顔だった。



「なんで、こんな笑顔でいられるの？」

と病院の方に聞くと

「お母さんのため」と言う。

お母さんはその子の姿を見ると、悲しくて仕方がない。

どうしてこの子はこんな目に……。

と自分を責め、苦しむ。

女の子は大好きな、お母さんの、

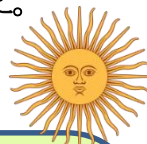
そんな姿をみるのがつらかった。



お母さんを元気づけたくて、笑顔を見せた。

やがて、お母さんのために童話をつくるようになった。

その中の「強い子」というお話。

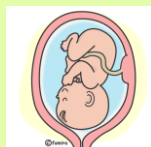


彼女がまだ生まれる前、ある日、神様に呼ばれました。

すると生まれる前のたくさんの赤ちゃんたちが並んでいて、

神様からひとりずつ、プレゼントをもらっている。

「美人に生まれたい！」



「お金持ちの家に生まれたい！」

神様に願えば、どんなプレゼントでももらえます。

女の子の番になりました。

ところが彼女は、何が欲しいかきめていません。

ふと見ると、神様の後ろに、



「重い病気」というプレゼントがありました。

「これは誰がもらえるの？」

「これはすごく苦しいプレゼントだよ。」



「誰がもらえるの？」

「一番強い子だよ、このプレゼントをもらった子は、

生まれてからすごく苦しむ、

だから一番強い子にしかあげられないんだ。」

女の子は思った、

「他の子がもらったら、その子にあったとき、

私はつらいだろうな……。」



そして勇気を出して神様に言いました。

「そのプレゼント、私に下さい。私が一番強い子よ。」

「他の子にはあげないで、他の子が苦しむのは嫌だから。」

「そうか、君が一番強い子なんだね。」

君が来るのを待ってたんだ。」

「ねえ、ママ そうやって神様をお願いして

私は産まれてきたんだよ。」



ママは泣きながらも、笑顔で彼女を抱きしめました。

福島正伸『仕事は夢と感動であふれる5つの物語』

(きこ書房)のあとがきより

文化発表会が終わり、ほっとしている時期だと思います。

中学3年生は、自分の進路を実現するために努力している時期

でもありますが、イライラした気持ちの時や、ボーとしている時

に心を落ち着かせたり、自分の感性を研いたり、いろんな知識

をインプットしたりできる読書をしてみませんか？

良い本との出会いは一生の宝物となります。



読書で心と頭を鍛えよう！